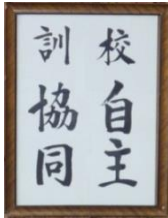


- ◇国の基本方針◇
○「生きる力」の確実な育成
- ◇県の基本方針◇
○「有徳の人」づくり
- ◇森町の基本方針◇
(森町教育大綱 H29～)
○「明日の森町を築く
心豊かな人づくり」
- ◇森町学校教育の目標◇
○『「こころざし」を持ち、
たくましく生きる子の
育成」



◇学校教育目標◇ 【目指す生徒像】
志をもち 鍛える たくましい生徒
～ 県下一きれいな学校を目指す生徒～
スローガン
「靴を揃え 背筋を伸ばし 返事はハイ」

- ◇展望(ビジョン)◇ 「おらが泉陽中・ええら泉陽中学校区」
- 生徒が学びたいと思い、保護者が通わせたくなり、教職員が使命を自覚し、職務遂行の力量を高めながら働きたいと切望する魅力ある学校づくりを目指す。
 - 夢や希望を持ち、目標を立てて学ぶ意欲のある生徒の育成を目指す。
 - 校訓「自主・協同」のもと、共生の精神を尊重する人間関係づくりを通し、確かな学力を目指す。
 - 人に喜ばれ、人に役立ち、地域の役に立つことができる生徒の育成を目指す。
 - 愛校心、郷土愛、家族愛に満ちあふれた生徒の育成を目指す。

- ◇学校の存在意義、使命感(ミッション)◇
- 生徒一人一人の安全・安心な学ぶ場を確保し、学力向上を目指す。
 - 家庭、地域と連携し、生徒一人一人の人格的な基礎を築くことを目指す。
 - 森町、静岡県、日本、世界に貢献する意欲あふれる生徒の育成を目指す。

A

次年度への反映

ステージ毎の成果と課題の 検証に基づく改善策の実践

P

生徒の実態把握
学校経営構想

各分掌の
教育課程

成果指標と
具体的取組
職員の
共通理解

知

**自分の考えを自信を持って
表現できる生徒の育成**

＜成果指標＞
「教師の授業力づくり」の実践と「生徒の自己学習力づくり(学習の3基本、家庭学習)」の取組により学校評価「自分の考えを表現することができる。」と答える生徒、85%を目指します。

V 飛躍 (1～3月)
IV 向上 (11～12月)
III 団結 (8～10月)
II 挑戦 (6～7月)
I 展望 (4～5月)

徳

自分や仲間を大切にできる、思いやりのある生徒の育成

＜成果指標＞
ピグマリオン大作戦、黙働のMYプラン清掃、人間関係づくりプログラム、ボランティア活動、生徒に寄り添う指導の実践により、自分や仲間を大切にできる生徒を育てます。学校評価「MYプラン清掃では清掃の方法や活動を工夫しながら意欲的に取り組むことができる」と答える生徒、100%を目指します。

体

心と体の自己管理ができ、苦しいことにも挑戦する生徒の育成

＜成果指標＞
心と体の自己管理をし、係や委員会等の自治活動、学校行事等の実践によって、学校評価「自分の成長のために、ステージ目標を意識して生活し、苦手なことにも挑戦することができる。」と答える生徒85%を目指します。

C

生徒の姿
学校関係者評価
学校評価(生徒・保護者・職員)
ステージ毎の分析

教師

人間性、専門性を高め、生徒、保護者、地域住民に信頼され、慕われ、敬われる教職員 ＜成果指標＞

公開授業、授業案、模擬授業等を通し、授業力の向上を目指すとともに、生徒の“こころ”を大切に、生徒に寄り添いきめ細かな指導をすることで、信頼され、慕われ、敬われる教職員を目指します。また、学校評価「学校が楽しい」と答える生徒、95%を目指します。

D

計画的な教育活動の実践

小規模校の強みを生かした個に応じた指導・支援

生徒と教師、生徒同士のかかわり合い

生徒主体の活動

経営の重点

【現状に甘んじることなく、
一歩前へ進もうとする生徒の育成】

- ・多様な見方、考え方ができ、表現の幅を広げたり深めたりする授業実践
- ・豊かな心、徳のある人間性、規範意識の育成
- ・心身共に健康で、夢の実現に向けて努力する生徒の育成
- ・校区幼小中一貫教育で、12年間を見通した教育活動の推進

我が校の特色【強みを教育活動に生かす】

- ＜生徒の実態＞
・素直で誠実・真面目な学習態度・勤労意欲が高い
- ＜保護者、地域との連携＞
・校区の子どもを大切に见守る姿勢・学校評議員会の活用
・学校だより「山脈」の発行・学校ホームページの随時更新

経営の基盤＝安心・安全な学校づくり

- 信頼される教師集団
・常に授業改善・3ゼロ+2＝不祥事根絶計画に基づく研修実践
・キャリア教育に関する研修・教育相談の充実(SC、SSWとの連携)・いじめ防止基本方針に基づく生徒指導と生徒の心の醸成
- 学校安全計画の推進
・確実な安全点検・緊急時対応マニュアル・防災教育計画の見直し
・地域防災訓練参加率90%
・学校生活管理指導表によるアレルギー疾患対応

勤務環境改善＝学校教育目標達成、児童と向き合う時間確保のための手立て

- 勤務実態の把握
・学校グループウェア「ミライム」を活用し超過勤務時間と勤務内容を把握
- 校務の整理と教職員の意識改革
・PDCAを機能させ取組内容を精選・職員間共助意識の醸成
- 保護者、地域との協働
・学校HP、学校便りによる学校理解・学校行事への協力依頼